

七里小学校

1 研究主題

**「自分の思いや考えを豊かに伝え合う七里っ子の育成」
～ICTの効果的な活用を通して～**

2 主題設定の理由

2年間の研究の中で、1年目は、ICT機器を活用することにより、学習に意欲をもって取り組む児童の姿や活発に考えたり伝えたりする児童の姿を多く見ることができた。また、児童の意識調査などにより、タブレット端末がアクティブ・ラーニングにとっても有効であることが分かった。

そこで、主題を「『自分の思いや考えを豊かに伝え合う七里っ子の育成』～ICTの効果的な活用を通して」と題し、この児童の姿をさらに実現するために、タブレット端末を活用したアクティブ・ラーニングを意識した授業づくりと話し合いを活発にするための工夫の研究に重点を置いて取り組んだ。

3 研究の視点

視点1 意欲を高めるための工夫



仮説 ICTを活用して学習への意欲を高める工夫をすれば、自分の思いや考えを豊かに伝え合う児童が育つだろう。



めあてをもたせるための活用



見通しをもたせるための活用



時短のための活用



効率よく復習するための活用



「考える」視点を
明確にするための活用



予想や疑問を
もたせるための活用

視点2 主体的・協働的な学習活動の工夫

主体的
協働的な
学習活動

仮説 課題解決に向けた主体的・協働的な学習活動を行えば、自分の思いや考えを豊かに伝え合う児童が育つだろう。



4 研究の主な取組

授業研究部

アクティブ・ラーニングを意識した授業づくりの研究



アクティブ・ラーニングを意識した授業を行い、その実践をまとめて、定期的な話し合いを行った。思考・表現を活発にするための学習形態、場の設定、話型などを話し合い、各学年の発達段階に合った目標について意見交換し合うことで、教員同士の共通理解を深めることができた。

ICT活用計画の作成



学年ごとに ICT 活用計画を作成した。どの教科のどの単元でどのように使用するかを写真入りでまとめることにより、誰でも手軽に ICT 機器を活用することができるようにした。

なかよし学級

特別支援学級では、児童の興味・関心に合わせた自作教材を活用することで意欲的に学習に取り組ませることができた。算数の学習では、タブレット端末で実物の時計を撮影して、フラッシュカードにした。

児童一人ひとりのペースで問題を練習することができ、時計を読むことが苦手だった児童も時計をスムーズに読むことができるようになった。



情報教育推進部

マニュアルの作成

タブレット端末の基本操作や授業支援ツールの使用方法等についてわかり易い説明書を作成し、各教員に配付して誰でも一人で簡単に使えるようにした。また、児童がタブレット端末を使う際のルールを作成し、各教室に掲示して、確認できるようにした。



スキルアップタイムでの活用計画

毎週木曜日の朝10分間、1学期は、3年がパソコン、4年がタブレット端末を活用した。漢字学習では書き順のチェックやとめ・はね等細部に気を付けることができた。計算練習では、回答時間を計ったり、瞬時に丸付けができたりすることで、児童の学習意欲が高まった。(2学期は高学年、3学期は低学年が使用)



プリントとはちがって、
時間もはかてやったので、
「早くやろう」と思えて、
九九の計算が早くなりました。



ラインドの漢字ドリルは、どのはねはらいに
きんしかたのていだしも気をつけて漢字を書きま
なりました。

5 成果と課題

【成果】

- タブレット端末を中心としたICT機器を児童の伝え合いや話合いで有効的に活用することで、よりアクティブ・ラーニングに近い、児童が能動的に取り組める授業を展開することができた。
- 授業でのICT機器活用場面の位置付けの他、学習形態の工夫や簡単な話型の活用などによって、伝え合いや話合いをさらに活発にすることができた。
- 教員の声を生かしたICT機器の環境整備やマニュアル作成を行うことで、教員自身のICT機器の活用率を高めることができた。

【課題】

- 伝え合いや話合いの経験を積み重ね、さらに思考力・表現力を身に付けていくために、ICT機器を活用した主体的・協働的な学習活動を計画的に学習計画に位置付けて取り組んでいくことが必要である。
- ICT機器のトラブルが児童の学習意欲の低下につながっているため、トラブルを軽減できる環境づくりをさらに進めていく必要がある。